

平成31年度

I 国 語

(9時00分～9時50分)

注 意

- 問題用紙は、6問で10ページです。
- 解答用紙は問題用紙の中にあります。
- 答えはすべて、解答用紙の所定の欄に、文、文字などで答えるもののほかは、ア、イ、…などの符号で記入しなさい。

福島県磐城第一高等学校

平成三十一年度 I 国語

一 次の各問いに答えなさい。

1 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) 食糧を倉庫にチヨゾウする。
- (2) 交流試合でシンゼンを深める。
- (3) 将来は医師をココロザす。

2 漢字「活」の部首と同じ部首をもつ漢字を行書で書いたものを、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 補      イ 伯      ウ 演      エ 絡

3 「有意義」と同じ組み立ての熟語を、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 好都合      イ 自主的      ウ 松竹梅      エ 向上心

4 「身から出たさび」と同じ意味で用いられる熟語を、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 徹頭徹尾      イ 粉骨碎身      ウ 自画自賛      エ 自業自得

二 次の金子みすゞの詩とそれについての鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝顔の蔓

金子みすゞ

垣がひくうて  
朝顔は、  
どこへすがると  
さがしてる。

西もひがしも  
みんなみて、  
さがしあぐねて  
かんがえる。

それでも  
お日さまこいしゅうて、  
きょうも一寸  
また伸びる。

伸びろ、朝顔、  
まっすぐに、  
納屋のひさしが  
もう近い。

次のうち、一つの意味だけに読み取れ、解釈をする上で誤解の生じない文として最も適当なものを、次の中から選り記号で答えなさい。

ア 彼はお昼前に学校に来るよう担任の先生から連絡を受けた。

イ 母親は笑いながら走り回っている子どもたちに声をかけた。

ウ 今朝東京に住む兄から正月には実家に帰ると電話があった。

エ 祖母から誕生日のお祝いに小さなかばんと財布をもらった。

### 【鑑賞文】

一節ずつをよく見ていくと、時間をかけて朝顔を見ていることがわかります。

「さがしてる」「かんがえる」「また伸びる」「もう近い」と、朝顔の蔓をよく観察し呼びかけ続けています。勉強中のわが子に遠くから声をかける母親のようにも思えてきます。

私の家でも朝顔の花が好きで、毎年よく咲かせます。小さな本堂の軒は、八月のお盆のころ朝顔の花でふさがってしまうので、お客さんたちが蔓に気をつけながら出入りをしています。

飼犬に「どうだ、きれいだろ」と言ったら、「ワンダフル!」と答えられました。

詩の二節目がなんとも素敵です。「西もひがしもみんなみて、さがしあぐねてかんがえる」、私たちがこうありたいと思わせられるところです。この先をどうしたらよいのかと、人間も考えあぐねてしまうことがあります。そんなとき、ふさぎ込んでしまったならなおさら先が見えなくなってしまうでしょう。そんなときは西を見たり東を見たりしながら、腰を据えてしっかり考えなければいけないのでしょうかね。

朝顔の蔓のように、つかまるものがなくて宙にさまようことがあっても、そのうちに風が吹いてきて、つかまえどころを教えてくれるということがあります。

それでみずゞさんは、「納屋のひさしがもう近い」と励まさずにはいら

れなかつたのでしよう。

多くの人に希望を与えてくれる詩です。そして、まずは自分へのムチにしたい詩であると思います。

(酒井大岳「酒井大岳と読む 金子みすゞの詩」から)

問1 「朝顔の蔓」とそれを見ている金子みすゞを、鑑賞文中ではどの

ようにたとえているか。二十字以内で抜き出しなさい。

問2 「私たちがこうありたい」とあるが、筆者がこのように思ったの

はなぜか。次の文の I、II に適する語句を、鑑賞文中の表現を用いて、I には五字、II には十字でそれぞれ答えなさい。

詩の二節目に描かれた朝顔の蔓の表現から、人間もどうしたらよいのか分からずに行き詰まったときには、I のではなく、視野を広げて、じつくりと II と思わされたから。

問3 「つかまえどころ」を具体的に述べた部分を、詩の中から抜き出しなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

劉寛饒は、その生まれつき、いたりて柔和なり。つひに怒れる色を

(非常に)

(また一度も腹を立てている様子を)

面にあらはさず。ある時車に乗りて参内せられけるに、人ありて、

(宮中に参上なさったとき)

牛を取り離して尋ねありく。寛饒に行きあひて、「この車に付き給ふ

(探しまわっていた)

牛は、わが牛なり。」といふ。寛饒、是非のことはせず、牛を解きて、

① ぜひ

この者に与へられたり。後に日を経て、取り逃がしたる牛、もとの家に

(お与えになった)

かへりきたる。その人恥づかしきことかぎりなくて、寛饒の牛を返し、

「それがし、卒爾なることを申しかけたり。いかやうにも罪におこなひ

(私は)

(失礼なことを申し上げてしまった)

(処罰なさってください)

給へ。」といひければ、寛饒のいはく、物見るに、相似たることありて、

さ(こ)

見損ずるは常のならひなり。いかでか恥におこなはんとて、牛をばとど

(どうして恥だとみなしましよつか)

めて、その人をば帰されけり。

(「堪忍記」より)

問4 「自分へのムチにしたい詩」の意味として最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 自分への賛歌にしたい詩    イ 自分への教訓にしたい詩  
ウ 自分への褒美ほうびにしたい詩    エ 自分への罰則にしたい詩

問5 本文の詩の表現についての説明として最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 朝顔の蔓が、垣根を越えて伸びていく様子を擬人化し、軽快なリズムで表現している。  
イ 朝顔の蔓が、ゆっくりと伸びていく様子をきめ細かく観察し、客観的に表現している。  
ウ 朝顔の蔓が、風に揺られながら伸びていく様子を、語調を整え重々しく表現している。  
エ 朝顔の蔓が、ぐんぐん伸びる様子を、同じ言葉の繰り返しにより印象深く表現している。

問1 傍線部①「是非のことをいはず」の意味として最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 牛が実際にその場に存在するかどうかはあえて言うことなく  
イ 牛が本当にその人のものなのかどうかはあえて言うことなく  
ウ その人が本物の牛飼いであるかどうかはあえて言うことなく  
エ その人が牛を大切にできるのかどうかはあえて言うことなく

問2 傍線部②「いかやうにも」を現代仮名遣いに直しなさい。

問3 傍線部③「寛饒のいはく」とあるが、寛饒の言葉はどこまでか。その言葉の最後の五字を抜き出しなさい。

問4 次の文は、本文について話し合っている先生と生徒との会話である。  
I   III に言葉を補い、会話を完成させなさい。  
ただし、I 、II は適する語句を、それぞれ十字以内の現代語で書き、III は最も適当なものを、後の語群から選び記号で答えなさい。

先生 「波線部『その人恥づかしきことかぎりなくて』、とあります。が、恥ずかしいと感じたのはなぜですか。」  
生徒 「はい。寛饒の牛を自分の牛だと主張して連れ帰ったの

に、後日 I ため、自分の主張が II に  
気付いたからではないでしょうか。」

先生 「そのとおりですね。それに対して寛饒は、謝罪に来た  
『その人』を責めることなく帰しましたね。寛饒は、ど  
のような考え方に基づいて、そうしたのだと思います  
か。」

生徒 「はい。寛饒は III という考え方をもっていたた  
め、『その人』を許したのだと思います。」

先生 「そうですね。寛饒の寛容な人柄が伝わってくる内容だ  
と言えますね。」

〔語群〕

- ア 人が損をするよりも、自分が損をするほうがよい
- イ 罪をおかした人間でも、軽んじることはできない
- ウ 間違いはよくあることで、とがめることではない
- エ 悪事を許してやってこそ、優しい人間だと言える

D 希望は、人々を物語の世界に引き込む <sup>ウ</sup> 魔力があります。 <sup>b</sup> ユウベン  
な政治指導者が、国民に希望を語りつつ、結果的に社会全体を破滅に巻  
き込むことも起こり得ます。かつてアドルフ・ヒトラーが、窮乏にあえ  
いでいた時期のドイツ国民に、希望を語る存在として熱狂的に支持され  
た歴史もあります。希望は活力の源ではありますが、同時に使い方を  
<sup>c</sup> アヤマれば、怖いものでもあるのです。

E 加えて物語の価値は実用性だけでなく、むしろ <sup>エ</sup> 知的興奮や感動に  
よって評価されるものです。その価値は「役に立つ」「わかりやすい」  
ことだけで、はかれるものではありません。むしろ「おもしろい」  
「もっと知りたい」といった想像力をかき立てる内容が求められること  
は、ここでも希望と共通しています。一方、希望に比べて安心は、裏づ  
けや保証を求めがちであるように、より <sup>※</sup> 実利的な観点から評価される  
ものです。

F 過去の挫折経験を豊かな言葉で省みることができ、無駄を無駄と思わ  
ない考え方や柔軟性を含んだ行動力を持った、いわば物語的な個人ほど、  
希望をつくることができます。それらの特性を有した人々がつながり、  
それぞれの物語が交じりあうことで、社会全体に共通した一つの物語が  
醸し出されるのです。そこに個人の希望を超えた、<sup>⑤</sup> <sup>カモ</sup> 社会の希望の物語  
が生じることになります。

G 物語は、歴史を積み重ねることによって、深みや奥行きを増してい  
ます。すぐれた物語は、過去につくられたものがそのまま残されること

④ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 希望は、不安な未来に立ち向かうために必要な物語です。希望があるところには、なにがしかの物語が存在します。物語の主役は、かならず紆余曲折を経験します。挫折や失敗の一切ない物語はありません。あつたとしても、おもしろくありません。その人が挫折を乗り越えるという体験があつて、はじめて未来を語る言葉に彩りは増します。物語は、<sup>①</sup>あえて無駄や脱線が加味されることで、内容に豊かな魅力を<sup>②</sup>帯びてくるものです。

B 古典作品の多くがそうであるように、<sup>③</sup>語り継がれてきた物語は、どこかつねに相反する両義的要素などが含まれ、そこに多様な解釈の余地が残されています。文学にせよ、音楽にせよ、<sup>a</sup>ゲイノウにせよ、古典となる物語はすべて、多様な解釈を示し続けるエネルギーを含んでいます。だからこそ、古典は時代を超えて共有され続けるのです。<sup>④</sup>希望という物語も、しばしば画一的な解釈を許さず、ときには<sup>ア</sup>矛盾に見えるほどの多様性を含んでいるのです。

C 同時に、物語の結末は、常に未来の幸福をもたらすものではありません。物語には悲劇的な結末も少なからず<sup>イ</sup>待っています。希望は、未来の幸福を保証するわけではありません。実現見通しのある希望は、現在の強い幸福感につながります。しかし希望が将来の幸福をもたらすという必然はどこにもないのです。

もあります。あわせて、代々語り継がれてきた民話などのように、続く時代に新たな中身が加味されたり、新たな解釈が<sup>d</sup>ホドコされたりすることもあります。社会における希望もまた新しい変化にさらされ、成長し続けるのです。

(玄田有史<sup>げんだゆうじ</sup>『希望のつくり方』による)

※ 実利……実際の利益や効用

問1 傍線部a～dのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部①「あえて無駄や脱線が加味される」における「あえて」

という語の働きを、次のように説明した。I、II

に適する語句を、それぞれ五字以内で書きなさい。

一般的には I ものと考えられがちな「無駄や脱線」  
が、実は II ものであることを強調している。

問3 傍線部②「帯びてくる」の「帯びて」と「くる」の二文節と同じ

関係のものを、本文中の二重線部ア～エから選り記号で答えなさい。

問4 傍線部③「語り継がれてきた物語」と、傍線部④「希望という物

語」の共通点として最も適当なものを、次の中から二つ選び記号で

答えなさい。

ア 多様性を含んでいる。

イ 熱狂的に支持される。

ウ 必然的に将来の幸福につながる。

エ 想像力をかき立てる内容が求められる。

オ 裏付けや保証を求めがちである。

問5 本文中におけるE段落の働きとして最も適切なものを、次の中か

ら選び記号で答えなさい。

ア これまでの内容に加え、新たな疑問を提示する。

イ 先に述べた内容に反論して、次の結論につなげる。

ウ これまでの内容をまとめ、主張を一本化する。

エ 前の段落の内容を説明するため、具体例を挙げる。

オ 先に述べた内容に、別の視点から補足している。

【五】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「私」が六歳の夏のある日、家族で盆踊りに出掛けることになり、私と姉は、浴衣ゆかたを着ることになった。新しい浴衣に袖そでを通し、はしゃぐ私をおいて、母は、まず姉に浴衣を着せ始め、胸の下に楕円形だの※帯板を当て、それを※三尺でくるくると覆い、きゅっと後ろで締め上げた。姉の浴衣姿は、妹の私から見ても、すっきりと大人びて見えただが……。

私は姉と同様の仕度したくをわくわくして待った。

姉の仕度を終えると、母は「さあ」というように私を自分の前に立たせると、I 私の黄色い三尺をくるくると身体に巻きつけてしまった。

当然ながら、私は姉と同じ、あの細長い板がほしいと駄々をこねた。

「あ、帯板？」と母は言い、それから、「はい、はい、文子にも……ね」と立ち上がり、居間の端の座布団の上にあった新聞紙を何回も小さく折りたたみ、何が始まるのかと見ている目の下で、その新聞紙を三尺でくるんだ。くるみこむ作業を終えてから、母は硬くピンと張った形の三尺を私の胸の辺りに持ってきた。

母の a イトを知った私は、驚いた。

「これじゃない」

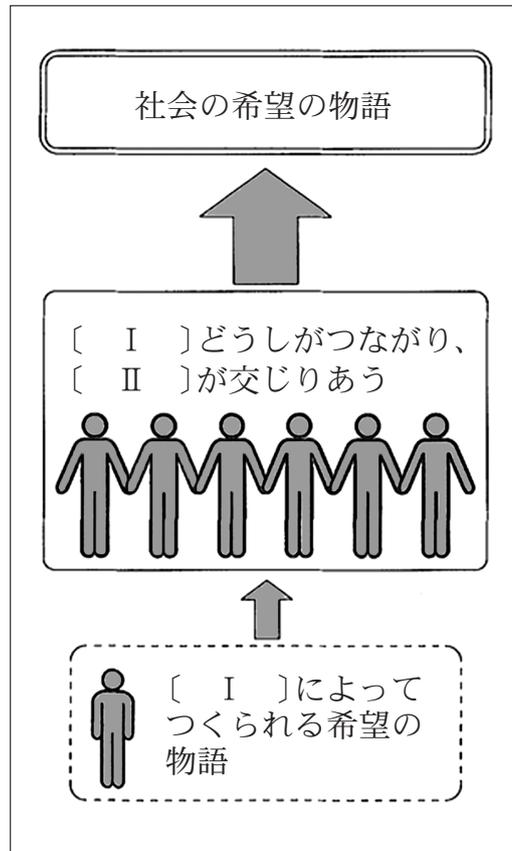
私を無視して、母は「ほら、ほら」と私の身体を回し、新聞紙の帯板でこの場をやり過ぎせまいと言わんばかりの手が、忙しく三尺を腰の後ろでりぼんに結んでしまった。

II という思いが涙になり、泣き叫んでいるうちに、こんなはず

問6 傍線部⑤「社会の希望の物語」が生じる過程を、次のように図式

化した。Ⅰ、Ⅱに適する語句を、Ⅰには六

字で、Ⅱには七字で、それぞれF段落から抜き出さない。



問7 筆者が述べる「希望」がどのようなものかを、次のようにまとめ

た。「Ⅰ」に適する内容を、「過去」という語を用いて、二十字  
以内で書きなさい。

希望は、「Ⅰ」  
「Ⅱ」ととらえることによって生み  
出され、未来に向かう活力の源となる。

ではなかったという気分が、Ⅲという、はつきりとした意思に変わっていく。口惜しい、いまましい、情けないという思いが、新聞紙を当てがわれた胸の辺りからあとからあとからこみ上げてきて、どうにも納まらなくなった。

「思いの丈を泣いた」と今でも私が記憶しているほど、そのときの私は自分でもわけがわからないほど聞き分けがなかった。

うすい板のような、ピンと硬くて張りのある、祖母や母と同じ楕円形のあれを、大人より少し小さめにできている姉と同じあれを、私も胸の下にどうしてもやりたかった。

① ほら、見てごらん。同じよ、同じ。文子のも、お姉ちゃんと同じに、ここがピンとしているでしょ」と、母は幾度も三尺の胸もとを撫でたり叩いたりしてみせた。一向に泣きやまない私に、母はついにこう言った。

「見えないでしょ。三尺の下は、見えないでしょ。同じことですよ！」と。

見てくれのことを言っているのではない。この胸の下に新聞紙がたたまれて入っているのがイヤなのだ。姉のは赤と白の市松模様の、大人と同じステキな帯板で、私のはどうして新聞紙なのか。間に合わせて辛抱しろという母の気持ちだが、私には我慢できなかった。

「もっと大きくなったら文子にも買ってあげるから。まだ要らないでしょ」と母は、いつものように、そう言った。もっと大きくなったら、そのときは私に帯板は買ってもらえなくて、姉のあの帯板が、こんどはそのまま私の帯板へと変わるだけなのを知っている。だから、母の最後のその言葉に、別の涙が止まらなくなったのかもしれない。

② あれは、大きい子の使うもの。文子は要らないの！  
母のとどめの一言に、姉が脇から、母と同じ大人びた表情で、「同じで

しよ……」と、ピンと張った三尺の胸を撫でる。

「<sup>③</sup>同じじゃないもん！」

私は浴衣の袂たもとでぐいぐい涙を拭ぬぐい、その行為をまた、母にたしなめられた。「ああ、ああ」という祖母の慨嘆を耳に入れながら、私は泣いた。泣きながら浴衣の袂たもとごしにふと見ると、祖母がつつと立って、大きな裁ちばさみを片手に台所に入ったのが目に入った。

祖母は開け放った居間との境の襖ふすまを背に、食器棚の上を **ナ**ガめている。ややあって、手を伸ばして菓子ふすまの空き箱を取り出すと、いかにも自分の作業を隠すような不自然な角度で身体をかがめ、はさみを動かし始めた。

その箱が、ずいぶん前に父が出張先の札幌から買ってきた最中もなかの入っていたものであることや、祖母がその空き箱の蓋ふたを眺め、「おや、綺麗な箱だこと」と、首を傾かげてしばし見入っていたことを私は憶おもえていた。その箱は、包装紙だのさまざまな包み紐ひもだのを捨てずにとっておく祖母にとっても、特に大切なものはずだ。

私は、麻の葉模様の厚紙の四角い角が、祖母の手で丸く裁ち落とされていくのを、涙を拭ふく袂たもとの陰から見た。「ほら、ほら」と、祖母は台所の床に裁ちばさみを置いたまま小走りに私に寄り、そしてくるくると私の腰から三尺をほどいていった。しゃがんだ祖母の浴衣の膝ひざの下から、うす緑色の麻の葉模様の帯板の、丸い角が覗のぞいていた。

祖母の手は、「はい、はい、はい」「そら、そら」という声と一緒に実まにきびきびと動いた。まるで何か言う暇も与えまいとするように、せわしなく「はい、はい」「そら、そら」とくり返されるその掛け声は、私に目隠しをする勢いで作業を終わらせ、私はさつきと同じ姿で、三尺を腰こしに蝶結ちやうつびにされて、祖母の前にいた。

問3

Ⅱ、Ⅲに適する語句の組み合わせとして、最も

適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア (Ⅱ)「変たた」 Ⅲ「こんなでも仕方がない」  
イ (Ⅱ)「あきらめた」 Ⅲ「こんなのに必ずしたい」  
ウ (Ⅱ)「欲しい」 Ⅲ「こんなのに当然なるんだ」  
エ (Ⅱ)「違う」 Ⅲ「こんなのでは絶対いやだ」

問4

傍線部①、②について、それぞれ「母」の気持ちを想像して朗読するとき、その読み方として、最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア ①は気をもたせるように読み、②は我慢がならないように読む。  
イ ①は機嫌をとるように読み、②は当たり散らすように読む。  
ウ ①は言い聞かせるように読み、②は丸め込むように読む。  
エ ①はなだめるように読み、②は有無を言わせないように読む。

問5

傍線部③「同じじゃないもん！」とあるが、「私」にはどのようなことが「同じじゃない」のか。その内容として、最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 姉は大人と同じ扱いなのに、私は間に合わせですまされること。  
イ 姉は外見が大人びて見えるのに、私は子供っぽく見えること。  
ウ 姉には母が優しく接するのに、私にはいつも厳しく接すること。  
エ 姉の帯は硬くピンとしているのに、私の帯は張りがないこと。

そつと胸の辺りに触ると、コツコツと触れる硬い。カンシヨクがあった。「ほら、お姉ちゃんと同じ帯板をみつけたよ。三尺の中に入っているよ。これはもう取ったからね」と言う祖母の手には、細長くたたまれた新聞紙があった。

「お姉ちゃんと同じ帯板」だなんて嘘だと知っていた。けれども、私は泣き止んだ。というより、泣き止もうと、厚紙を切る祖母の柳模様の背をみながら決めていた。不満はあったけれど、「泣き止もう」と決めたのだった。

(浜文子「おばあちゃんの隣りで」による)

※ 帯板……帯の形を整えるために、帯の間に入れて用いる板状のもの

※ 三尺……三尺帯 子供の浴衣などに使われる簡単な帯

※ 市松模様……色の違う四角形を交互に並べた碁盤目の模様

問1 傍線部 a、c のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 I に適する語句を、次の中から選び記号で答えなさい。

ア ひとまず    イ 徐々に    ウ いきなり    エ とうとう

問6 傍線部④「『泣き止もう』と決めたのだった。」とあるが、これは「私」のどのような気持ちを表しているか。そのような気持ちになつた理由も含めて五十字以内で書きなさい。

問7 本文の表現について説明したものとして、最も適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 「ピンと」「ステキな」など、カタカナを多用することで、文章全体に軽やかなリズムを生み出している。

イ 「あ、帯板？」「同じでしょ……」など、会話を効果的に用いることで、場面の臨場感が高められている。

ウ 「ほら、ほら」「はい、はい」など、感動詞を繰り返して使用することで、こっけいな様子が印象づけられている。

エ 「そのときの私は自分でも」など、現在の視点を入れて描くことで、過去と現在が対照的に描かれている。

六 あなたが考える「未来に残したいもの」は何ですか。理由も含めて書きなさい。

《注意》

・原稿用紙の正しい使い方に従って、一六〇字以上、二〇〇字以内で書くこと。

・題名などは書かずに、本文から書き始めること。